

名誉会員追悼



故 名誉会員 舘野万吉 氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、(株)日本製鋼所名誉顧問(元代表取締役会長・社長) 舘野万吉氏は平成27年11月18日ご逝去されました。享年100歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は昭和15年3月、東京帝国大学工学部冶金学科を卒業後、同4月に(株)日本製鋼所に入社、室蘭製作所平炉工場に配属、戦時中の呉海軍工廠での勤務の後、室蘭製作所熔鋼工場長、鍛錬工場長、鍛圧部長、工務部長、取締役室蘭製作所副所長、常務取締役所長の後本社に移り、専務取締役社長室長、同営業本部長、副社長を経て、昭和54年6月代表取締役社長に就任、60年同会長、62年相談役に選任、平成14年には名誉顧問に就任されました。

氏は一貫して、鑄鍛鋼製品の大型化、高品質化技術の開発・発展に従事され、保持炉、取鍋精錬炉の導入による当時世界最大となる単重570トンに及ぶ超大型鋼塊の製造技術確立、真空炭素脱酸技術の導入による鋼塊の内部品質の著しい向上、550トン大型鑄鋼の開発等は我が国の工業技術として特筆すべきものであります。鍛錬技術においては、超大型鋼塊内部の空隙を効果的に圧着する温間鍛錬技術や高圧圧力容器部材の新しい鍛造技術を開発されました。氏の開発した技術は、火力発電、原子力発電、石油精製、製鉄などの産業プラントで使用される素形材鑄鍛鋼製品の大型化、高品質化に先駆的な役割を果たし、我が国の高度経済成長に多大な貢献をするとともに、産業界の発展を支えてきたといえます。また、経営においても、室蘭製作所設備の近代化、原子力発電部材をはじめとして、製品の多様化、大型化、高品質化を指導し、同社の鑄鍛鋼製品を世界の最先端に導かれました。

氏は当会においては、昭和45年評議員、49年理事、51年監事を歴任し、昭和26年に渡辺三郎賞、59年に渡辺義介賞、60年には製鉄功労賞を受賞し、名誉会員に推挙されました。本会以外からも、昭和40年には温間鍛錬法の開発で大河内記念技術賞を受賞、45年科学技術庁長官賞、52年には藍綬褒章、62年には勲二等瑞宝章を受章されております。また、日本金属学会顧問、日本機械工業連合会理事、経済団体連合会常任理事、日本鉄鋼連盟理事、日本兵器工業会会長等の要職を歴任され、我が国の科学技術の発展、産業の育成発展に貢献されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な御業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成28年2月

日本鉄鋼協会 会長 加藤雅治